

「第3回利用団体のための体験活動研修会」

1. 趣旨

国立赤城青少年交流の家を利用する団体の引率者が実際の活動プログラムを体験することで、施設の利用方法や各プログラムの内容を理解する。

2. 事業の概要

(1) 期日

令和元年6月22日（土）

(2) 参加者

①参加対象 令和元年度利用団体（主に8～11月）で、活動プログラムの体験を希望する各団体の引率者

②参加人数 30名（11団体）

③参加者の内訳 小学校11名、中学校15名、ユースクラブ4名

3. 企画運営のポイント

- ・各学校独自の下見では実施できない野外炊事を中心にプログラムを構成する。実際に野外炊事を児童・生徒と同じように体験することで、当日安全に活動が進められるようにする。また、選択プログラムとして、実績の多いオリエンテーリングと、教員が実際に指導できるよう「かんな箸作り」や「竹とんぼ作り」を取り入れる。
- ・施設見学・利用説明では、施設の場所だけではなく、ガイドブックには記載していない情報などを伝える。
- ・参加する各学校に、事前に質問事項を出してもらうことで、当日の質疑応答の時間を有効に使えるようにする。（基本的なことの共通理解を図る）

4. 日程

	午前	午後
6月22日 （土）	開会行事 施設見学 施設利用説明 質疑応答 野外炊事体験	選択プログラム体験 ・オリエンテーリング ・竹とんぼ作り ・かんな箸作り

5. 主な活動内容



「施設利用説明」



「野外炊事（調理班）」



「野外炊事（かまど班）」



「オリエンテーリング」



「かんな箸作り」



「竹とんぼ作り」

6. 成果と課題

(1) 参加者アンケート結果（30名回収）

満足27名（90%） やや満足3名（10%） やや不満0名 不満0名

(2) 参加者の声

- ・大変参考になりました。丁寧に教えていただきありがとうございました。
- ・施設見学では、わからなかった部分を知ることができ、大変参考になりました。
- ・詳しくご説明いただきありがとうございました。
- ・児童と体験する前にカレー作りを練習することができて、とてもよかった。
- ・児童に指導し、安全に楽しく体験活動させたいと思います。
- ・実際に見て、体験して、お話を伺えたことで、不安が減りました。

(3) 成果

- ①参加した先生方に多くの体験をしてもらい、実際に引率者自身が野外炊事等の各プログラムを体験することで、指導のポイントを理解してもらえることができた。
- ②施設見学では、3グループに分かれて、自主下見では分からないこと、施設の各場所の使用方法や間取り、収容人員等の詳細な情報を参加した先生方に伝えることができた。
- ③施設利用について、動画を活用して全体で一斉に説明することで、参加した先生方の共通理解が図れた。

(4) 課題

- ①1, 2回の課題をふまえて実施した事業であった。休日に行ったが、平日に実施した方がよいという意見も多くあった。次年度は春休み中等の平日実施も検討したい。
- ②千葉市の学校が多かったため、早く来ている団体が多かった。食堂が時間に来られるように、連絡体制をしっかりとる必要がある。
- ③参加者が定員分集まったが、漏れのないように、担当者同士で、HP申込者の印刷・管理を誰が担当するのか共通理解を図る必要がある。

担当 企画指導専門職 塩原 基寧